

サステナビリティ経営方針

2025年3月

学校法人 荒川学園

理事長 荒川 泰幸

サステナビリティ経営方針

世界の状況と企業への期待

現在、世界は気候変動等の環境問題の深刻化、格差や貧困の拡大、感染症の拡大、紛争の勃発等、難題に直面しており、企業を取り巻く環境も急速に変化、多様化、複雑化しています。その様な状況のもと、当学園は企業には「持続可能(サステナビリティ)な社会の実現」に貢献する社会的責任があると認識し、環境負荷低減、人権尊重等に取り組んでおります。

また、近年、SDGsへの関心の高まりなど、社会課題の解決に向けた企業への期待も高まっております。

事業の意義

当学園は服飾と日本語教育を通じて、実践的なスキルの習得と地域社会への貢献に寄与しています。TGB Collegeでは服飾に関する専門知識を教え、学生は実践的なスキルを身につけることができます。J-COLLEGEでは日本の大学への進学や日本企業への就職を目指し、日本語教育に力を入れています。さらに、地域との交流の場を設け、多文化共生への取り組みも行っています。こうした事業によって多様性豊かな人材を輩出し、持続可能な社会の実現に貢献しています。

今回の検討結果

当学園が持続的に成長するためには、学生に高い質の教育を提供する教員の労働環境の改善が必要だと認識しています。一方、学生の多くは外国籍であり、日本の文化や慣習への適応も重要です。そうした状況を鑑みて、今回以下のマテリアリティを設定し、それぞれKPIを設定しました。



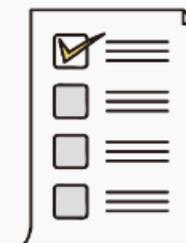
学生の語学力向上



学生に寄り添う
支援体制の構築



地域に開かれた
学校運営



法令遵守

サステナビリティへの具体的な取り組み

マテリアリティ

学生の語学力向上

選定理由

学生の語学力向上は当学園の目的であると共に、日本語人材が増えることによって、日本国内での就労者が増えることが期待されることからマテリアリティとして選定。

アクションプラン

日本語能力試験N3※1合格に向けた支援体制の整備
定期的にCEFR※2の達成率の把握

取り組み効果

学園の社会的信用の改善



マテリアリティ

学生に寄り添う支援体制の構築

選定理由

学生の様々なニーズに応えられる教員を増やすことで、学生に寄り添った支援の実現が期待されることからマテリアリティとして選定。

アクションプラン

各人材を対象とした給与テーブルの整備

取り組み効果

学生の満足度向上
入学者数の向上



KPI(目標と指標)

毎年の入学者について70%以上日本語能力試験N3合格者を出す。
入学者全員がCEFRのB2レベル(6段階の上から3番目のレベル)に到達する。

KPI(目標と指標)

2026年3月までに常勤教員を新たに2名採用する。
常勤教員採用に向けて給与テーブルを整備する。

※1日本語能力試験：日本語を母語としない人たちを対象とする検定試験。N1からN5の5段階がありN3は上から3番目の難易度

※2CEFR：外国語の習熟度や運用能力を同一の基準で評価する国際標準。外国語の5技能(読む、聞く、書く、話す、発表する)の習熟度および運用能力を6段階で評価

サステナビリティへの具体的な取り組み

マテリアリティ

地域に開かれた学校運営

選定理由

地域との交流を行うことで、相互理解が進み、互いが多様性を受け入れる風土が育まれることが期待されるためマテリアリティとして選定。

アクションプラン

学校近隣の小中学校と協業
大学生のインターンシップの受け入れ(J-COLLEGE)

取り組み効果

多様性の理解



KPI(目標と指標)

年間1回以上の地域と交流する企画を実施する。

マテリアリティ

法令遵守

選定理由

学生の留学ビザや各種法令対応は、在日外国人が不法滞在とならないために不可欠であり、社会的に意義があることからマテリアリティとして選定。

アクションプラン

定期的な法令遵守対応の勉強会実施
学生のビザ情報の管理徹底

取り組み効果

学園の社会的信用の維持



KPI(目標と指標)

学校生活、私生活含め日本国内のルール遵守を徹底させる。
ビザの更新支援を徹底する。